NIHONJIN NO WASUREMONO

日本人の忘れもの

第2部　4

忘＝筆　森清範　清水寺貫主

心やすらぐ場所

「愛でる人がいるから　花は咲く」

高知市内を流れる鏡川のほとりにある鷹匠公園にみつけた句である。鏡川は水量が多い美しい川であり、市民の散歩道である。私はこの光景をこよなく愛した。ところが、川べりを歩くにつれて先の句に違和感をなぜか覚えるようになった。「愛でる人なくも花は咲く」の方が良いとの実感である。喜寿を迎えた昨年まで、私は現役で働きづめであった。宗教家でありながら、その実、管理職から管理職と長年勤めざるを得なかった。

私を癒やしてくれた四国の自然と歴史

心身ともに疲れ果てたこの私を癒やしてくれたのは、地方都市、四国の高知であった。この地で、自然を愛で、書に親しみ、好きな歴史散策を楽しみ、ゆったりとした時の流れにわが身を任せる術を学んだ。人と交わることがどれほど自然で、大切なことか、子どもはこんなにかわいいものなのかに気づかされた。考えてみれば、私がした事業などはすぐ忘れ去られるに違いない。いつまでも、それにしがみついていることを煩悩と呼ぶのだろう。

茶の湯は、仏寺より市民の茶へ、ひいては武人の茶へと変貌していった。隠遁して山中にこもった時代から、町のど真ん中で、人生を見つめる憩いの茶室を作ったのは町人であった。町衆の茶を「市中の山居」と、当時の宣教師ロドリゲス通事は称した。町の雑踏と日々の営みの煩雑さの中で、彼らが求めた一瞬の安らぎの瞬間、場所は茶室であり、茶の湯であった。

茶の湯の小さな庵は、文化、芸術に浸る場であり、孤独の中に人生を求道する場であった。
（武者小路千家官休庵・京都市上京区）

現代はどこに「市中の山居」を求めたらよいのだろうか。

溝部　脩
カトリック名誉司教

数奇とは贅沢な貧弱であり貧弱な贅沢である

ロドリゲスは面白いことばで茶の湯を表現している。「数奇とは贅沢な貧弱であり、またきわめて貧弱な贅沢である」。茶の湯の小さな庵は、文化、芸術に浸る場であり、孤独の中に人生を求道する場であった。一期一会、一座建立などといった精神性を強く意識させていた。多忙の中に鎬を削って生き抜いていた町人にとっては、憩いの場であり、精神を統一する場でもあった。

現代に戻って考えてみよう。今や男性のみならず、忙しさの中に埋もれているのは女性、子どもたちでもある。疲れきった戦士たちは、町の欲望の渦に巻き込まれてあえいでいるのが現状である。偽りの安らぎに一時身を任せて生きているが、それも長続きはしない。真の安らぎを与えてくれると思われる宗教もうさんくさい臭いがする。制度に頼っている宗教は閑古鳥が鳴く寂れようである。現代どこに「市中の山居」を求めたらよいのだろうか。京都は日本人のこころのより所と言われて久しい。果たして現代の京都は、今を生きる日本人に何を差し出すのだろうか。

◉みぞべ・おさむ
1935年生まれ。68年、ローマ教皇庁立グレゴリオ大史学部博士課程修了後、上智大文学部日本史学科博士課程修了。2000年、カトリック仙台教区司教、04年、高松教区司教を経て、12年から、京都カトリック西陣聖ヨゼフ教会在、学校法人ノートルダム女学院理事。著書に「キリストの教会の歴史ーれいめい期」「メッセージー殉教者から現代の教会へ」など。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。（毎週日曜日に掲載します）

きょうの季寄せ（七月）

兎も
片耳垂るる
大暑かな

芥川龍之介

「破調」と前書を付す。「小暑」（陽暦7月7日ころ）、「大暑」は二十四節気の一つ、今年は本日。夏のひどい暑さとも察してよい。

野生の兎（のうさぎ・やと）は冬の季題、家兎のだらけた耳を暑さの極みの象徴として明示する。

久保田万太郎は「芥川龍之介仏大暑かな」と詠む。24日がその忌日、河童忌、我鬼忌ともいう。

（文・岩城久治）

「きょうの心伝て」④

KOKORO DETE

小嶋京楓 いけばな京楓流家元
（京都市中京区／78歳）

大事にしたい「親心」

母親が亡くなると箪笥にいっぱいあった着物を「もう、誰も着ないから…」といって箪笥ごと捨ててしまう人がたくさんいます。

もう、使い捨ての時代はすぎました。今は、物を大切にする心が大事です。

私はそんな箪笥に眠っている古い着物を作務衣風にアレンジして、和の心、母の心を大切に颯爽と着ています。と、いうのも私はお花を生ける仕事柄、着物そのままでは活動しづらく袖丈も短くして、下はパンツスタイル、これで車の運転もラクラク。と言ってもお出かけは晴れ着をドレスっぽく仕立てなおして。例えば座布団、暖簾などに変身させる。形は変わっても母のぬくもりを感じます。

花一輪生けるのにも「一生懸命咲いてね」と花に声をかけ、また咲き終わって萎れた花にも「ありがとう」の感謝の気持ちを忘れません。いつでも誰もが、ありがとうの感謝の心を持ち続けたいものです。

「きょうの心伝て」募集

◉あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか？暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の系譜や、伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せ下さい。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル（12文字以内）と本文（400文字以内）、郵便番号、住所、氏名（匿名は不可）、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。
Fax：075-222-2200
E-mail：wasuremono@mb.kyoto-np.co.jp

◉「日本人の忘れもの」は、京都新聞ホームページ http://kyoto-np.jp/kp/kyo_np/info/nwc/ でご覧頂けます。

第3回KYOTO KAKIMOTO恋文大賞®

熱い思いを伝えたい。

紙には、肌に感じる温もりがあり、表情があります。
そこに手書きの文字をしたためれば、
人柄や情景までもが目に浮かびます。
多くの人びとが、PCメールや携帯電話で
用件を伝えるようになった今でも
紙は、熱い思いを伝える最大のツールだと
私たちは信じています。
本年で3回目を迎える「恋文大賞®」。
紙を通して文化を創造する、
私たちの大切な活動の一つです。

過去の入賞作品、授賞式の様子を以下のURLよりご覧いただけます。
恋文大賞　検索　http://www.koibumi-kakimoto.jp/

ESTABLISHED 1845 KYOTO KAKIMOTO
紙を超え、京都から世界へ
柿本商事株式会社
柿本商事　検索　http://www.kyoto-kakimoto.jp/
本　社　〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル常盤木町54番地 TEL 075-211-3481（代）
本店営業部　〒601-8121 京都市南区上鳥羽大物町19 TEL 075-662-0131（代）
◎紙事業部（出版・商業印刷・パッケージetc）◎Consumer事業部 紙司柿本 ◎出版情報事業部

第3回KYOTO KAKIMOTO恋文大賞® 募集要項

恋文大賞® 応募のきまり
●最初に家族や友達などタイトルとして「伝えたい相手」を書いてください。
●用紙は自由です。800字以内にまとめて書いてください。
●日本語の自作未発表作品で、1人1作品に限ります。
●パソコンなどによる印字でも構いませんが、できれば「手書き」でお願いします。
●下の応募用紙に必要事項をお書きの上、原稿に添付していただき、郵便またはメール便でお送りください。

応募資格 小学生以上の方ならどなたでもご応募いただけます。

賞 ◆手紙（文章・詩）部門 ◆ビジュアル（絵手紙・絵本・Photo）部門
（各部門）●一般の部 ●高校生の部 ●中学生の部 ●小学生の部
◎恋文大賞（総合・1点）30万円 ◎審査員賞（数点）各15万円 ◎佳作
◎小学生、中学生、高校生の部の入賞者には、楯と記念品を贈呈いたします

応募締め切り・応募先
2012年8月31日（金）（当日消印有効）
〒601-8121 京都市南区上鳥羽大物町19
柿本商事株式会社 恋文大賞® 係
○○部門○○の部 （例：手紙部門 一般の部）

入選発表
2012年11月3日（土・祝）の新聞紙上、および「KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞®」ホームページにて発表いたします。また、同日に授賞式も開催し、女優の檀ふみさんに受賞作品を朗読していただきます。尚、今回は一般の方にもご来場いただけます。

問い合わせ
「KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞®」事務局
☎075-662-0127　平日 9:30～17:30

注意事項
〈著作権について〉
応募作品の全ての著作権は柿本商事株式会社に帰属します。応募作品は返却いたしません。また、応募作品は、出版、映像化などで利用することがあります。予めご了承ください。
〈個人情報について〉
応募者の個人情報は、恋文大賞®に関する発表や、連絡、賞品の発送、出版など応募作品の利用における応募者表示以外の目的には使用せず、個人情報の適正な管理に努めます。

第3回 KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞® 応募用紙

京

必要事項をご記入の上、作品に添付して郵便またはメール便で送ってください。
【作品応募先】〒601-8121　京都市南区上鳥羽大物町19
柿本商事（株）恋文大賞®係○○部門○○の部（例.手紙部門一般の部）

【応募締切】
2012年8月31日（金）
（当日消印有効）

氏　名	性別	生年月日	職　業（小中高生は学校名と学年）
ふりがな	男 女	大正・昭和・平成　年　月　日	
住　所			電話番号（日中連絡の取れる）
〒			

※応募作品の全ての著作権は柿本商事（株）に帰属します。応募作品は返却いたしません。また、応募作品は、出版、映像化などで利用することがあります。予めご了承ください。
※応募者の個人情報は、恋文大賞に関する発表や、連絡、賞品の発送、出版など応募作品の利用における応募者表示以外の目的には使用せず、個人情報の適正な管理に努めます。